

## イントロ

有名な格言「民主主義は最悪の制度である。しかし他のどの制度よりもましである」の示すとおり、とびぬけて優れた至上の制度ではない。前提条件として、国民の大半が正しい価値観と判断能力を備えていなければ、間違った方向に進む。現在、先進国を中心に歪んだポピュリズムが横行し始めた所以である。

正しい判断とは何か、それは歴史を学び、己の目先の利益にとらわれず、周りの人たち（社会）全体が平和と生きがいを実感できる方向にむかうことであろう。

この問題は、かねてより多くの経済学者や評論家が指摘してきているが、いまだ有効な政策を打ち出せずについて、ますます負の部分が深まってきた。現状に不平、不満をいまく国民が半数を超えると、民主主義の多数決の基本原則により、当然政権は覆る。ポピュリズムの行先はカリスマ的な独裁政権に向かうことは歴史が証明している。

問題は行き過ぎた富の偏在にあることを、誰もが認識している。最近も米国で心ある富裕層が、その偏在を薄めようという政策を掲げて活動し始めたが、多数の富裕層が猛反対し、政策に結び付けるところまでいたらない。単に慈善精神に訴えかけるだけでは動く人は、極めてわずかである。“人間は欲のかたまり”で、それが自然な姿であり、責めることはできない。しかし、この問題の解決には、やはり金持ち連中が動き出さないと、小生のような貧乏人がいくら声高に叫んだとしても“ゴマメの歯ぎしり (\*1)”に過ぎず、何の効果もない難問である。

## 対策

ゴマメとは自覚しながらも、やはり何か言っておきたい。

極めて常識的であるが、①税制②保険③芸術・文化④宗教の4つの政策を進めていく必要があると考える。

### 1. 税制（相続税）

日本の場合、国と自治体の借金の合計が、ほぼ1200兆円で、ちょうど個人の金融財産と同レベルである。

富裕層の財産は、かなりの比率で今後数十年の間に遺産相続で徴収されるが、その比率傾斜角度を高めると同時に、生存中に早く収めたほうが得する制度にし、制度改定で早めに回収する。

### 2. 保険（老後安心保険）

数億レベルの高齢富裕層も少なくないと思うが、やはり圧倒的に多いのが数千万の人であろう。現在元気な人でも、まさかの時に子供に負担をかけずに、できるだけ残しておかねば、と思うのが親心である。7, 8割の人は、まさかの時を迎えることなく、去っていく。そのお金を「老後安心保険」として供出してもらおう。

まさかの時には、その数倍の保険金が受け取れるようにする。民間保険会社にも若干似た制度を用意し、宣伝しているが、運用方法が異なる。保険金は国の収入にあてる。上記の税制とセットで制度設計したほうが良いかもしれない。絶対的信頼が求められるので、国の仕事であろう。

### 3. パトロン

芸術・文学・哲学・スポーツ振興などの、単なる寄付行為ではなく、ステータス、実利も得られような、自分自身も高めていけるような満足・やりがいを伴うもの。こちらは国主導ではなくて、各種営利・非営利の民間団体に、報道機関、出版・書籍、ネット運営会社などが（互いに競争しながら）一丸となって機運を盛り上げていく。\*\*道と称するコトは、奥が深い。いくらでも高めていく道筋がある。歴史をみても経済発展期ではなくて、停滞期に大きく進展している。何かの道の歴史に名を残すことも、生き甲斐として自覚できるのではなかろうか。

#### 4. 宗教(\*2)

こんなところに宗教を取り上げることに、違和感を覚える人が大半であろう。しかし、世界的に見て、人心を一新するうえで、その力は偉大である。一部の怪しげなものは別として、長年引き継がれてきた宗教は人々の心の拠りどころとして多大なる貢献をしてきた。\*\*教という人間が作った組織ができると、人を救うのと合わせて、時に勢力争いや対立し、殺し合いにまで突き進むという負の面もあることは人間である以上しかたない。

今は対立している時ではない。お互いに相手を認め、尊重し、本来の神の教えである平和と安寧にむけて人を導くのが指導層の責務であろう。富の偏在が、状況悪化を引き起こしていることを分っているはずだ。

改革には、必ず痛みを伴う。その痛みの配分が立場に応じて公平でなければならない。どんな制度を作ろうと、理想的、完璧なものなどありはしない。必ず欠陥があり、悪賢い人間が出てきて、その隙間をくぐったり、悪用するものが出てくる。しかし、公平さを保ち、その発生をミニマムにする工夫はできる。そこに優秀な官僚の知恵を出してほしい。

#### 追記

- a. 富の偏在解消に向けて、もっと良い案はないのでしょうか、どなたかアイデアもしくは情報お持ちの方、教えてください。
- b. ある人は、所得税や固定資産税だけでなく、「動産**所有税**を導入すべきだ」と言ってます。それでなくても外国に資産を移す動きがあるのを助長する懸念があるので小生は反対です。
- c. 小生の案が受け入れられるためには、「信頼のおける国家と政治でなければならない」という指摘がおこるでしょう。もちろんその通りで、現体制、野党含めて猛省を促したい。
- d. (その1)で提示した課題6) 縦割り行政脱却、人口減に沿った行政の簡素化 については、その1で提言した。憲法改正と国の仕組みの再構成に含まれるので、ここには含まない。

以上

(\*1) ごまめは小さなカタクチイワシを素干しにしたもので、この句では実力のない者のたとえとして使われている。実力のない者が、やたらと憤慨して悔しがったり、いきりたつことをいう。また、その行為が無駄であるということのたとえにも使われる。

(\*2) 小生自身 自然の摂理として神の存在を信じているが、既存のいかなる宗教の信者ではない。理神論(デイズム)に近いとらえ方をしている。しかし宗教の人間におよぼす力は信じている。